

番町地区タウンミーティング

平成25年2月8日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日は恐らく1年で一番寒い日になったんじゃないかと思います。こんな寒い中に、また平日の夜でございますのでお仕事お疲れの方もいらっしゃると思いますけれど、こんなに多数の方が集まっていたいただきありがとうございます。このタウンミーティングの開催に当たりましては、地元の公民館長さんであります小倉館長さんをはじめ、役員の皆様にはご協力をいただきました、ありがとうございます。このタウンミーティングというのは、私市長に就任させていただいてから始めさせていただいております。松山市は公民館本館でいいますと41の地区に分かれます。すぐそこ、番町の方々にとっては市役所すぐですけれども、市役所でずっと待ってるほうがどちらが楽かという、市役所で待ってるほうが楽だと思います。そうじゃなくて、我々のほうから皆さんのところに向いて行って、それぞれの地区で魅力もあるでしょうし、課題もあるでしょうし、お困りの点もあるかと思いますので、そういうの我々のほうから聞かせていただこうということで始めさせていただきました。待ってるだけではだめだ、こちらから向いて行ってお話をさせていただこう、こういう思いでさせていただいております。そして大体流れはこのように、まずは意見交換、「1. 番町地区の魅力について」。各地区の魅力についてまず話をさせていただいておりますけれども、これは松山市41の地区に分かれておりますけれども、それぞれの地区の魅力を一番感じているのは行政でしょうか、地元にお住まいの皆さんでしょうか。それは絶対地元にお住まいの皆さんのはずです。その皆さんに、やっぱり地元のいいところを出していただいて、その魅力を生かしたまちづくりができれば、その地区はなお輝くということが言えると思います。また、41の集合体である松山市はより輝くということが言えると思いますので、行政が主体になってその地区のまちづくりをしてしまうと、どこのまちも同じような金太郎あめのような、樺さんも近いですからおたやんあめのような地区ができてしまうばかりです。そうじゃなくて、それぞれの魅力を生かしてまちづくりをしていこうということで、まず魅力について語っていただいております。そしてこのタウンミーティングの特徴は、まずこちらから向いていこうというのが1つと、聞

きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのがこの松山版のタウンミーティングの特徴でございます。聞いているふり、いわばガス抜きではございません。ここで答えられるものはできるだけここで答えをして帰ります。また答えられないものというものもあります。それは例えば国と絡むものとか、県と絡むものとか、財政的な問題があるもの、こういうものはいったん持ち帰らせていただいて、また国に問い合わせる、県に問い合わせる、返事が返ってくる、市としての方針をまとめて、そして皆様にお返しをいたしますので、大体1カ月をめどということになりますけども、必ずお返事をする。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしない、ガス抜きではないよってというのがこの松山版のタウンミーティングでございます。皆さん御存じのように、松山市の仕事というのは非常に広範囲に渡っております。それぞれの専門家が来ておりますので、自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは。市民部長の三好でございます。このタウンミーティングを統括いたしております。普段の仕事といたしましては、窓口における行政サービス、市民課でありますとかサービスセンター、それからパスポートセンター、それから22支所、7出張所、こういうところで窓口サービスを行っておりますほか、男女共同参画でありますとか、地域におけるまちづくりでありますとか、人権啓発でありますとか、そういった幅広い仕事をしております。よろしく願いいたします。

【環境政策課長】 皆さんこんばんは。環境政策課長の犬野と申します。環境部では、皆さんが生活している環境の保全の仕事とか、ごみ処理に関する事、それから地球温暖化対策、そのような仕事をしております。本日はどうかよろしく願いをいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは。都市政策課の白石と申します。都市整備部では、道路、公園などの整備及び維持管理を行っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは。下水道部下水道政策課の青木でございます。下水道部では公共下水道の整備、それから河川水路等の浸水対策事業、そしてがけ崩れ防災対策事業というところを所管しております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【地域経済課長】 皆さんこんばんは。地域経済課長の田中と申します。産業経済部に所属しています。この地域で最も縁が深いのは、商業振興でございます。そのほかに企業立地とか、あるいは中小企業支援とか、あるいは雇用促進といったことをやっております。よろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは。教育委員会事務局生涯学習政策課の前田と申します。教育委員会では次代を担う青少年の健全育成、またこういった公民館を中心とした生涯学習の推進などに取り組んでおります。本日はよろしく願いいたします。

【市長】 はい、という今日は担当課長、企画官、部長の6名でございます。さて、いよいよ話にということになりますけど、今日私は懐かしいなと思いながらこの公民館にやってまいりました。知ってる方もいらっしゃると思いますが、実は私は以前そこにありました番町幼稚園の卒園生でございます。2歳年下の妻は、番町小学校の卒業生、城東中学校の卒業生です。時代がなんとなくわかりますね。もう城東中学校ありませんけれども、今日はですね、番町はもう日曜日には愛媛マラソンが控えておりまして、交通規制などで皆さんにはご迷惑かけますけど、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。90分、肩ひじ張っているとさすがに90分は長いですから、肩ひじ張らずに前向きな議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 改めまして、皆さんこんばんは。まず最初に皆さんを代表しまして、このような機会を設けていただきました野志市長さんはじめ、松山市の大変ご多用な方々ばかりにここに来ていただきまして本当にありがとうございます。番町の魅力、ここに来られてる方一番御存じだと思いますけれども、松山市の中心地にあるということとですね、それから松山城を含め、萬翠荘などいろいろな文化財に恵まれているということですよ。そしてあの町並みも松山市のおかげで本当に二番町、一番町、本当にきれいになりまして、本当に私たちは住みやすいまちだなとこのように思っておりますので、この番町地区を我々の手でもっともっと住んでよかった、来てよかった、もう1回歩いてみたいっていうような、そういうまちづくりをしていかなければいけないなとこのように思っております。地域の方にも時々申し上げるんですけども、やはり番町はおもてなしの心でいこうと、おせったいの心でいこうということで、皆さんそれぞれ各商店分かれまして

も、それぞれそういう気持ちでやっていただいていると思いますし、それぞれ地域におきましても、そのような気持ちで取り組んでこられておると思います。番町地区、日本一のまちにしていきたいなとこういう気持ちでおります。なかなか簡単にできることではありませんけど、そして商店街の発展などにつきましてはご意見出るとは思いますけど、これはそれぞれの商店がそれぞれ工夫をして、同じような商店であっては困りますので、それで特徴のある商店をつくっていくというようなことで、それでまちづくり、いろいろなところでお話をさせていただきながらですね、四国の中心の大都会として四国を引っ張っていくような、そういう番町地区になってほしいなと、このように思っております。いろいろと今日はいいい機会でございますので、たくさんのご意見、番町行ったけど全然意見出なんだということでは困りますので、皆さんどんなことでも結構です、何でもお答えをいただけるとは思いますので、番町行って本当にいろいろやられたかいと言われるくらいなご意見を出していただいたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございます。

【市長】 はい、もう皆さん御存じのとおりで中心商店街があること、そして文化財があること、歴史があること、便利であること、本当挙げたらきりがなくらい、この番町はよさがありますので、それを生かしたまちづくりができればなというふうに思います。さっそく、皆さんお困りの点あると思いますので、入らせていただいたらと思います。

【男性】 さっき言ったように、確かにまちはきれいにできとんです、見た目はね。でも商売人の目から見るとそれは相当最悪になってます。今中央商店街、銀天街、大街道もきれいに見えてはおりますけれども、財政状態は相当難しくなっております。単価でいいますと相当下がってますし、悲惨な状態になっております。専門店も専門化が進んで、ナショナルチェーンじゃないと、やりにくくなっている状態です。

【男性】 中心市街地のことですがけれども、60余年自分のまちで住んでおりました変遷を見ておりますと、今がちょうどたそがれどきみたいな市駅前になっておるんですよ。それでみんなこのままではいかんという総意でまとまっておるんですけども、市駅前の再開発事業が前流れまして、また今回花園町から市駅前にかけて機運が起こりよんですけど、再開発するに当たってはやはり仕掛けを

つくらないと。私が思っているのは鉄道の高架事業においてもう一步進んで、JRの列車を市駅に入れると、入れてとにかく人口を市駅前に集中させて、仕掛けができれば再開発事業も成功するのではないかと私は思っておりました。でもあまり話が大きすぎて今日の話にはそぐわないんですけど、希望を持って市駅前の開発をしないと、道州制をされるようなことになれば、松山市は四国の中で置いていかれるのではないかとという長期的な観点からも、市駅前の再開発で特異などこにもないような再開発をして地域の商業的な発展の拠点的なところとして、もう1本の観光の柱と、2本立てで松山市がこれから50年も100年も発展していくようなまちづくりを市長に考えてほしい。まず一步からですけども、やはり行く方向はそういった形で私は仕掛けをつくってとにかく市駅に人を東中南予から集める仕掛けをしないと、ただビルを東西南北につくって再開発をしてもたぶん今の状況では人が集まらないと思っております。以上です。

【市長】 はい、わかりました。これについては、まちづくりの大きな方向性について話をさせていただきます。これは中心市街地ということで市駅前も花園町も絡んでくる話だと思いますので、せっかくの番町地区ですので話をさせていただきます。今、松山市の財政も含めて、日本がどうなっているのか、地方がどうなっているのかというお話もさせていただきます。まず国においては1千兆円の借金を抱えているといわれております。国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金といった形でお金が配分されてまいります。大もとの国が1千兆円の借金を抱えているならば、地方へ配分されるお金が増えるというのはとても考えにくいですよ。そうした中、少子高齢化があります。例えば高度経済成長の時代だったら日本の状態もどんどんよくなっていく、経済もよくなっていくとわかってましたから、郊外に幅広い道路をどんどん広げていく、下水道を郊外へどんどん広げていくことができたと思います。でも少子ですので子どもの数が少ない、つまり働いて税金を払ってくれる方が少なくなりますっていうのを意味します。国からの配分もおそらく増えないだろうし、もともと払ってくれる方も少なくなるでしょう。でも行政としては税金、お金がないと商店街のまちの振興はできませんし、ごみ収集もお金がないと、エネルギーがないとやることはできません。片や高齢化でいいますと、高齢化してくると当然視力も落ちる、運動能力も落ちるということで免許の返上も考えなくてはならない。そういう中で車が

ないと生活できないところは困るわけです。でも皆さんに胸を張っていただきたいのは、松山は公共の交通機関、路面電車がある、郊外電車もある、そしてJRもあるという大いなる宝があります。我々ずっと松山に住んでいると路面電車が走っているの当たり前って思うかもしれませんが、全国には1,800の自治体、市町村あるんですけれども、路面電車が走っているところはわずか17しかないんです。今、道州制のお話がありました、道州制でどうなるっていうのは各都市で違いますので置かれている状況っていうのは一般的に言えないと思いますけれども、どんなに状況が変わっても松山はものすごく可能性がある都市なんです。車がないと生きていけないというまちではない、全国に17しかない路面電車が走っています、免許の返上をしてもやっつけていける。そして松山は平たん部が多い。坂の多いまちだったら、これから歩いてください、自転車で走ってください言うても、そうはいかんでしょう。また松山はコンパクトシティといいまして、市役所すぐそばにある、県庁すぐそばにある、銀行もすぐそばにある、病院もすぐそばにある、大学なんかなんと聖カタリナ大学、北条も入れたら4つもある、そういうのがぐっとまとまってるコンパクトシティです。そんな中、TODって国土交通省がよく言うまちづくりの方法ですけど、「transit」移動を、「oriented」適応させて、「development」発展させようっていう考え方ですけど、もう1つ言うと住宅地と商業地を隣接させて、そして公共交通をより利用しやすいものにして都市を発展させようっていう考え方です。商業地、大街道、銀天街、まつちか、こういった商業地と住まうところ、マンションを隣接させて、今まさにそうなりよりも。松山城の周りにいっぱいマンションができよりもね。お父さんとお母さんの会話です、もう大分退職も近くなってきた、奥さんのほうが「もう私は郊外じゃなくて町なかに行ったほうが、電車でも行ける、病院も近い、銀行も近い、役所も近いから町なかのマンションに住みたいわ」ということで町なかのマンションに住まわれる方が増えてきている。住宅会社の社長さんともお話ししてそういう話聞いております。住宅地と商業地を隣接させて公共交通をより便利のいいものにして、都市全体を発展させるという考え方がまさにできるところが松山です。少子高齢化がちょっと先に来ているのがヨーロッパです。ヨーロッパ、公共交通を生かしたまちづくりをやっています。このTODのまちづくりです。この中で、花園町もこのまちづくりの一環としてやらせていただいております。

ります。車中心の世の中じゃなくて、これからは歩く人、自転車の人に配慮したまちづくりをしないとイケない。少子、お子さんはもっと大事な存在になります、小さいお子さんとお母さんが手をつないで歩いている、自転車と混在するようなことでは、子どもと自転車がぶつかって大きい事故に発展することもあります。これから高齢化すると体の不自由な方も出てくる、そういう方が家に閉じこもっているのでは病状はなかなか回復しない。脳梗塞で麻痺される方もいらっしゃいますけども、できるだけ歩いてもらったほうが回復も早い。もう1つ、厚生労働省、国においては、国民一人一人が3千歩一日歩みを増やしてもらったら、距離にしたらずか2キロになります、朝1キロ、夜1キロ歩いていただいたらいい、国全体にしたら2,700億円の医療費が削減できるっていわれております。これ、皆さんが健康になっていただけるっていうことと、2,700億円あればほかに事業ができるんです。より歩いていただきましょう、自転車を利用していただきましょうということで、花園町電車は複線、車2車線ずつ、イチョウ並木で知られる緑地帯、副道、東西のアーケードがあります、幅広い市内で一番大きい40メートルの通りです。実際に通行量調査をすると車はもう半分、車線も1車線にしてもいいでしょう、左折右折もちろん配慮したまちづくりはしないとイケない。でも歩行者空間を増やす、そして自転車空間を増やすということでやらせていただきました。社会実験ですから、もちろん賛成ばかりの意見であるとは思っていません。反対の声が出たらそれで前向きな議論を積み重ねていこうということで社会実験もさせていただきました。もちろん押しつけないで皆様と会話しながら花園町もやっっていこうと思っております。市駅前については公共交通機関の乗り継ぎの利便性を向上させる、そして歩行者空間、当然市駅前には駐輪場をどうするのかという問題もありますのでそれもしっかりとやってまいります。中央商店街というのはこれから松山市のまちづくりをする上では非常に大事な場所なんだっていうのがおわかりいただけると思います。大きな冷蔵庫より小さな冷蔵庫っていうのをこれから意識しないとイケないっていう考え方があります。大きな冷蔵庫は郊外のスーパーマーケットに土曜日、日曜日に行って1週間分の買い物をしてくる、それもよかったけれども、これからは日々そういうお店に行っただけ、小さい商店に行っただけで会話を楽しんでいただく。「今日は何が安いの」「今日は何が入っとるん」そういう会話をするによって個人のつ

ながりができる、コミュニティ、コミュニケーションができる、いざというときの助け合いにもなる。そういう大きい冷蔵庫より小さい冷蔵庫っていう考え方もあります。それを考えるとまさに大街道、銀天街、まつちかはこれからすごく大事なところですよ。あと国の財政について言わせていただいたので、市の財政について言わせていただいて終わりますけれども、松山市の財政で今一番大きなウエイトを占めているのが福祉にかかるお金の民生費です。ほか教育費とか土木費とか衛生費とかいろいろありますけれども、民生費っていう福祉にかかるお金が40パーセントと一番大きなウエイトを占めております。これが松山だけで1年だけで50億円増えたんです。松山だけが突出しているわけではありません、どこの地方自治体もこうやって苦労しています。国からの配分が増えない、市税が増えない中で福祉にかかるお金が一番ウエイトが大きくて、1年で松山だけで50億増えた。この中には皆さんがよく聞かれる生活保護費、1年で松山だけで決算ベースでいうと15億増えたんです。もちろんこれはセーフティネットですから生活に困窮されている方非常に大事なお金です。松山市もこれが圧迫するっていうことがあってはいけませんので、ケースワーカーと一緒にハローワーク行くとか、できるだけジェネリック医薬品を使っていただくようお願いするとか適正に努めておりますけれども、なんせ経済が悪いので生活保護費1年で松山だけで15億増えた。何が言いたいかというと、大もとの財布がこれ以上膨らみっこないんで、50億増えたならばどこかで50億絞らないといけない。どこかで15億増えたならばどこかで15億絞らないといけない。じゃないと財政のバランスは悪くなる。松山市まだいい状態ですけど、悪くなったら途端です。こうやってタウンミーティング重ねさせていただいて、皆さんからいろんな要望出させていただきます、それでいいんです、要望出させていただいたほうが。皆さんが何も言わなくなったらやっぱり誤ってしまいます。きちんと声を聞かせていただいて、何をすべきなのか優先順位をつける。そのために皆さんの声を聞かせていただいております。何でもかんでも、皆さんが要望されて「わかりました、これやりましょう」って言ったほうが市長の人気取りにはつながるかもしれませんが、でもそれをやってしまうと、将来の子どもや孫にツケを残すだけです。何か行政がものをつくると、「調子悪いからやめます」っていうのはできません。いっぺんものつくったら最初のコストも要りますし、将来的な維持管理費も要る。それは将来の

子どもや孫が払うんです。ですのでよくよく考えてやらないといけない。そのために皆さんの声を聞かせていただきたいのでこのタウンミーティングさせていた
だいております、そんな状況です。ですのでこれからはますますコンパクトシ
ティ、中央部に集まってくるという形が都市の経営コスト、環境への配慮にもつな
がりますので、中心部に集めていきたいと思っておりますので、中央商店街の皆
さんにはますます活躍をしていただかなければならない。そんな場所だと思っ
ておりますので、これから前向きにやっていただくことがすごく大事であります。
最後にもう1つだけ、長くなりましたけれども、松山確かに雨が少ないまちです。

「雨が少ない、雨が少ない」って文句言よったんでは何も進まん。でも発想を変
えて、雨は少ないけれども上を見たら太陽がさんさんと降り注ぐところ、それに
気づいて松山やってきたのが松山サンシャインプロジェクトです。太陽光発電を
どんどん進めてきました。国が補助やめても松山市は歯くいしばって太陽光の補
助出し続けてきました。太陽光発電企業も誘致進めてきました。文句言ってるだ
けだと何も変わらない、発想を変えたらまた新たにできることある。そういうこ
とありますので、皆さんだめなんじゃと思わないでください。前向きに議論を進
めることでまた新たなまちの形ができると思いますのでどうぞよろしくお願いし
ます。長くなりました。

【男性】 先ほど言われた花園町のことについて、1つ疑問があることがあるん
です。この間実験をしていたときに1車線になったんですが、そうするとこの間
はバスだけが通るような通りになってしまって、電車が通るとバスはほとんど真
ん中走っていくんですよ。そうすると横を抜けていく2車線が1車線になります。
それで交通量の調査をこの間からしてましたけど、少ないのは当たり前です。今
松山市内から本町とかJR前に行こうと思ったら、花園町を通るのが一番早い道
です。というのが国道へ出ると渋滞がすごい。新空港通り出るためには済美の交
差点で何回も待たないかん。そのために花園通るとすつと行けるんですよ。そこ
に路線バスと観光バスも通るんで、いつもあそこバスが通りよるだけなんです。
市内の人が通り抜けれないというのはもってのほかじゃないかなと。それと市内
電車は今頻繁に通ってますんで、バスもどうしても市内電車の端によります。だ
から2車線が1車線になる。今街路樹を植えてた花壇のところを柵にしますけ
ど、あの網にすると道路が広がって両方通れるんですよ。だから無理して1車

線にする必要はないんじゃないかと。あそこを1車線にするとバスしか通りませんよ。そうするとあそこに何を催し物しても歩く以外には見えない。車で通る人も見て初めて「ああいう催し物しよんやったら土曜日か日曜日行ってみようかな」と思う気持ちもあると思うんです。あれはまだ実験の段階だと思うんですけど、1車線にするのは何とか2車線のままで置いておいてもらいたいです。それとあそこで屋台とかいろんな催し物をするという計画を聞きましたけど、市内電車のほこりはすごいんですよ。あれは鉄の粉が飛びますので、衛生的にちょっとどうかなと。それと、バスは今すごいディーゼルの煙のすごいバスが走っています。ディーゼルの排煙の問題もあると思うんで環境的にどうでしょうかと、衛生的にどんな問題があるんでしょうかということがちょっと疑問になったんで質問させていただきました。

【都市政策課長】 まずなぜ1車線化かということについてですが、交通量からいいますと花園町で今約7千台日量。20年前からいうと半減しております。7千台という1車線で十分車の量は通過できる可能性があります。同時に先ほど市長が説明したように松山市ではコンパクトシティ、すなわち歩いて暮らせるまちづくりというのを目指して今取り組んでいるところです。というのが今現在歩行者と自転車が錯綜しております。そういうような中で安全安心、また災害に強いまちづくりをするためにはどうしても歩行者と自転車は分離しなければなりません。自転車のレーンを新たに設けないといけないとなると車線が1車線減少していくということです。同時に先ほど申しましたように歩行者が安全に、また体の悪い人が車いすが安全に利用できる空間を目指して取り組んでいるということでございます。

【市長】 ほこりとか煙のことについては実際に数値を測ってみたいと確かなことは言えないので、いっぺんそのような測定も、まだしたことはないですかね。測定をさせていただこうかと思えます。

【市民部長】 今いただいたご意見持ち帰りまして、そのあたりまた社会実験の補強資料として使わせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 1つ追加させていただきたいのが、花園町通りというのは松山市で一番幅の広い通りです。40メートルあります。このような幅の広い通りは大手町通り、そして平和通りとあります。なぜこんなに広いのかというと、御存じの方

もいらっしゃるかと思いますが戦後の復興事業でできた道路だからこれだけ広い通りなんです。いわば今昭和でいいますと88年です。昭和20年と考えればもう68年前の道の使い方です。ずっと車増えてきましたけれども、やはりまちのこれからの人口予測にあった空間の使い方をしなければならないと思っております。我々も何もしないほうが楽なんです。例えば花園町のことについても、三津のことにしても、北条のことにしても何もしないほうが楽なんです。でもそうじゃなくていろんなデータがあります、そういうデータ。皆さんのお声もいただきながら、将来のまちづくりのことを考えるとどの形が一番都市の経営コスト、環境への配慮、そういうものを考えたら一番ふさわしいのはこうじゃないかというのを提示させていただいて、私は絶対にやりたくないのはお仕着せはやりたくないんです。「私たちはこういうプランですけれども皆さんどう思いますか」ってことで、意見交換をさせていただいて積み上げていくのが一番いいまちづくりかと思っておりますので、また会話できればと思っております。また花園町の夜のちょっとした屋台、あれも無理強いするつもりはございません。皆様の反対の声があるのであれば無理してやることないと思っておりますので、ずっと毎日やるようなことでもないと思っておりますので、それはやりようはいろいろあると思しますのでとにかく押しつけない、皆さんと会話をしながらいいまちづくりをしていきたいという思いでございます。

【男性】 今大街道のアーケード内にサイクルガイドさんがおられまして、大街道だけではありません、三番町にも、二番町の伊予銀行大街道支店のあたりにもおられるんですけど、確かに道路そのものは平日あたりは脇道は相当きれいになっているんです。ただその自転車というのは大街道のすぐ近くからどこかに追いやられているだけの話、どこかに蹴散らしているだけの話。何もきれいになったわけではないし、どこかに迷惑がかかっている。それを考えると非常に心苦しいんですけども、最近よくいわれるのが、私にも大学生の娘がおりまして、娘の友達が家に遊びに来るときに、「なるべく大街道では買い物せんようにしとる」というわけです。「何で」と聞くと、「すぐにおばちゃんが飛んできてすぐに文句言われるけん、ここでは買い物する気になれんよ」と言うのです。これは、大街道にとったらむちゃくちゃ厳しい話です。これだけ冷え切った景気の中で、そういう人たちが少しずつ確実に増えております。この問題、自転車の問題につき

ましては非常に長い問題で、私の記憶ですと24、5年この話ずっとしてます。いまだに解決に糸口が見えてきません。そして去年、おとし2年間連続で、土曜夜市のときの自転車の取り締まりを徹底的に見てまいりました。そのときに自転車がどうしてもすごい数があふれますので、服部時計店と二浪証券の間から東へ一本、次の道路まで約50メートルか60メートルほどあると思いますけど、その間に100台くらいあっとたまります。そのうちの内訳、7割が飲食街の従業員です。松山市の総合交通課の方とお話はよくさせていただくんですが、やはり飲食街の従業員さんもしくはアルバイトさんの台数をどれくらいに把握されているのかそれが非常に疑問です。それを調べず蹴散らしても、結局は八坂通りのほうへ行くか、それかこちらの番町公民館付近までこのニューグランドホテルの並びあるいはその親愛幼稚園の並びあたりまで自転車を蹴散らすだけの話なんです。根本的な対策に一切至っていない、これで25年来てるんです。このまま放置しておくところからまた25年間、半世紀何も変わらないまま過ぎる可能性が大ですので、どこかでゴールを決めて、例えば平成25年、あるいは26年、7年の何月までにというゴールの時期を決めて、それに向けて地域を巻き込んだ徹底的な議論をしないと物事の解決は一切至らないと思います。これ25年間変わってこなかったんですから、私が20代からやってきて変わってこなかった問題ですから。このまま今のようやり方で、その場しのぎのやり方をやっても、結局半世紀間松山のこの自転車行政の問題は一切変わってこなかったということになりますから、ぜひお願いしたいのはどこかにゴールを設定して、そのゴールまでに答えを見つけると。そのためにはどうしたらいいんかということ徹底的に議論を、地域を巻き込み飲食街もそうです、皆さんで議論をして、飲食街で働く人がどれくらいいて、アルバイトの人たちがどれくらいいてということを考えてその数字をはじき出して、ぜひゴールをセッティングして、議論を進めていただきたい。それをお願いしたいと思います。

【都市政策課長】 自転車問題ですけど、今おっしゃられましたとおり大街道、銀天街だけの問題じゃなくて、花園町、また市駅前もまったく同様の状況でございます。そのなかで従業員や通勤者が路上駐輪というのが非常に多くあります。これらにつきましても、ゴールを見据えてというようなことですので、精一杯努力させていただいてどういう解決方法があるかについて取り組んでまいりたいと

思います。よろしくお願いします。

【市長】 私のほうでも総合交通課と話しておきます。ゴールを決めてというご提案がありましたので、また話して1カ月をめどに必ずお返事をいたします。私ももやはり何とかしたいという思いです、また同じ思いだとは思いますが。

【男性】 今のと若干かぶるところもあったんですけど、駐輪の問題で、大街道、銀天街の自転車の通行禁止、これが僕の中ではすごくひっかかって、僕らのばあちゃんの代からみんな自転車のお客さんに商売をしてきた。この時代になってきたから自転車をストップしたとなると非常に大街道、銀天街の人たちは商売をしにくいついていうこともありますし、僕、小学校1年と2年生の子どもがいるんですけど、結局大街道、銀天街自転車乗れないから、大街道の横を通りますよね。業者の車がいっぱい道もガタガタ、危ないことがいっぱいなので、今はもう平気で僕走ってます、大街道、銀天街を。子どもがいるときは。結局、安全安心とは全く反対のことで、そこはもうちょっと大街道、銀天街から外すのであれば、その側面も同じように見てもらいたいついていうところがまず第1点。ここをできたら、大街道、銀天街の軒先に置けるような社会実験をしてもらいたいついています。もう1点が、いろんな話が水面下で動いているとは思いますが、ラフォーレの跡地、あと松劇通りのL字型、愛媛新聞の1面に出ましたけど、あそこら辺を市がどこまで把握してて今ここで公表できること、いろんな情報がいろんな人から出るので全然わからないついでいうのがありますので、そこら辺を返答をお願いします。

【都市政策課長】 確かに銀天街、大街道につきましては、自転車を禁止しております。ただ禁止した中でそういう裏通りについて安全安心、そういう自転車の走行環境ができれば一番いいんですけど、これらにつきましても以前も大街道で社会実験を行ったことがあったと思います。そういう中で歩行者と自転車の事故防止ということで今も歩行者専用道路になってはいますが、ただいまご意見いただいたものを持ち帰りまして、また検討させていただきたいと思つています。

【地域経済課長】 地域経済課長の田中でございます。まずラフォーレ跡地の件です。最近新聞紙上にも記事で載っておりましたので読まれた方もいらっしゃるかとは思つています。新聞の記者の独自の取材の中で書かれた内容ではございますが、これに関して言える範囲ということにはなりますけれども、1つはすでに松

山市としては優良建築物等整備事業という国の補助制度を活用させていただいて支援そのものは始めておりまして、すでに基本設計等に対して補助金を出している状況です。事業主体が森ビルさんです、敷地の大半を森ビルさんが所有をされてらっしゃるので、そういった土地の活用ということを含めて、さらに市民からのかつてのラフォーレの場所をまたにぎわいの場所にしてほしいという強い要望等を受けまして、より市民の皆さんにとって期待されるものになるべく努力をされているということは聞いております。そういった中で、その間リーマンショック等もございました。今も商業環境が非常に厳しい中でいろんな事業者さんと話をしながら、現在まだ取り壊しまで至っておりませんが、そういった形で開発ができるよう努力している状況はきちんと確認をさせていただいておりますし、松山市としてもいち早い完成を目指して頑張っていたきたいということを何度も要望させていただいております。いずれにしましても地権者も含め関係者の皆様、実施主体であります森ビルさんも前向きに取り組んでいる状況は変わりませんので、しばらくまだ時間はかかるようではございますけれども、何とかご期待に応えるような形に持っていきたいと思っております。それからL字の再開発等の話ですが、このL字地域というのは今までにも何度か再開発の話が、地元から上がってきたと私も伝え聞いております。地域経済課で平成22年の3月に松山市広域集客商業活性化戦略を策定させていただきまして、これは商店街の皆様にも何度か説明もさせていただき地権者の皆様にもいろんな形で情報発信させていただいたものですが、そういった中にL字のところにやはり大きな何らかの集客核を持ってくることによって全体の回遊性を高めて、より多くのお客様にきていただける状況をつくる必要があるということは、かつてより地元の皆様からのご要望でもありましたし、松山市もそういう認識のもとで、活性化戦略の中でL字の部分についての大きな集客核を進めていく必要があるということは明記させていただいておりますので、松山市としましてもこれは地権者の皆様あるいは近隣者の皆様がやはり機運が高まっていくというところにあわせて何とか私どものほうも支援をしながら頑張っていきたいと思っております。今回あのような形で記事に載った経緯はよくわからないんですけれども、ただ昨年度から、大街道、銀天街の地権者の皆様に情報発信をいろんな形でさせていただきまして、非常に老朽化した商業の建物等を1つ集約して、例えば優良建築物等整備事業やあるいは

再開発事業などを活用していただきながら、建物を更新していただくという支援をしますということを推進する事業をしております。今年度もいくつか街区ごとに有志の方が勉強会をしたいというようなことがあれば、勉強会を主催させていただいて皆さんに勉強をしていただくということは実際やっております、L字地域の有志の方ともに勉強させていただいている状況です。いずれにいたしましても前向きに、まちの本当に発展の重要な部分であるという認識はございますので、頑張っって進めていきたいと思っております。

【市長】 職員は手元に細かい数字などがありますので座ったままで、私は皆さんの顔を見ながら話したいので立って話させていただきますけども、ラフォーレさんのことにつきましては私も就任早々さっそく森ビルさんに行かせていただいて意見交換させていただいております。2カ月前くらいにも森ビルさん松山市役所来られまして話をしておりますので、できる限り早くしていただきたいということは常々申しておりますので、今前向きに動いてくださっているのも確認しておりますので、できるだけ早くと思っております。それと、自転車のことですけれども、様々意見があるのは承知しているんですけど、やはり安全に買い物を楽しんでいただきたいという気持ちが強くて、近くまで、走れるところまでは自転車で来ていただいて、大街道、銀天街はお年召した方も歩く、お子さん連れた方も歩かれるので大街道、銀天街の間は押して行っていただきたいと思っているんですけど、皆さんは大街道、銀天街の中は自転車で通れるべき、お店の前にとめて買い物ができるべきだと思われる方多いんですかね。これもまた総合交通課と話をして回答させていただきます。

【男性】 自転車のことばかりに集中したら時間ももったいないんですが、1つつけ加えさせていただきたいんですけども、自転車を押して大分そのお行儀がよくなって、皆さん協力して押していただいとる。これ大変結構なことだと私思います。これは批判もありますけれども、市のほうも努力されとるし、またまちのほうも押していただくことについては歓迎すべきだろうと思うんですが。そして自転車対策ですけれども、先ほどゴールを見つけて云々という話がありました、それはその通りなんですけれども、私は発想の原点が、ちょっと狂ってきているんじゃないかと思うんです。それは当初は大街道なんかでも大きい駐輪場をつくれば、それでもって排除していく段取りでいいと思ってたと思うんですよ。そ

の時点ではやむを得なかったかもしれませんが、実際やってみますと、自転車のお客様というのは何といてももう近くへとめたい。遠くへとめてから行くんだったらもういやだっていうのがほぼ100パーセント近いと思うんです。だから自転車をとめて歩いて2、30メートルなら我慢できる。50メートル歩いていったらもうだめなんです。ここのところが、極端な言い方ですが排除することから入るとるところが、私は根本的に行き詰ってると思うんです。御存じのように自転車は市民生活にとって非常に大事だと、だからそれを何とか愛を持って、自転車ライフというものを促進しようというのが基本方針ではないかと思うんですが、それに当たっては、まず自転車で来てもらってそして利用してもらえる、その受け入れの体制をまずつくる。「こういうふうにしましたから放置はだめですよ」というのならわかるんですが、今の現状だけいいますと排除が先に立ってしまっている。受入態勢というものを考えずに、規制を先行させてやるところに一番の混乱があると思うんです。だからそのスタート時点の、発想をもういっぺん原点に帰って、そして組み立てをしていただくことが大事だろうと私は思うんです。

【市長】 はい、私から。どうも市役所の側も皆様のほうもどうもうまくいってないというのが現状だと思いますので、ちょっと持ち帰らせていただいて、はっきりとしたお答えを返そうと思いますけども、改めて大街道や銀天街、まつちかの皆さんと自転車をどうするんだというのをもう一回形式的な話じゃなくて、本当に腹割ってどうするのが一番いいのかというような場を持たせていただいたほうがいいのかなと感じました。ちょっとその方向で話してみようと思います。

【男性】 3番目のテーマの生活環境になるかと思うんですけど、今松山市は防犯灯をLED化されとると思うんです。蛍光灯よく切れますので今日みたいに雪が降ったり寒いときにはよく電気が切れるんです。それでこれ何べんもかえよると費用も結構かかります。防犯協会にいただいとると思うんですけど、これ、おとしぐらいやったですかね、番町小学校の周りにLEDの街灯をつけられて、どれが一番いいかという実験されとったと思うんです。それから徐々にかえていかれとると思うんですけど、ぜひともこの番町地区の防犯灯をまずLED化して、それから松山市全体をLED化していくということはないでしょうかということなんです。その点お願いします。

【市民部長】 番町小学校に置いておったのが社会実験で、というのがLEDの機種が非常に性能にばらつきがあったということで、番町小学校のところに4カ所と北条地区で実験させていただきました。その結果ばらつきがあるものの一定の効果があるということで、今年度からLEDを新設のところからすでに導入しております。既存のところを入れますと3万灯あるんです。これを一度にかえますとそれこそ15億とか20億とかいうお金が要りますので、まず新設のところからかえていって、まだ器具が高いですから、そのうちLEDは随分メーカーが量産しておりますので、もう少し値段が下がった段階で既設の物の取りかえも考えたいと思いますが、まず新設はLED化という形でやっていっております。LEDは電気代も安くなりますし、それから期間が今までより何倍も長くなりますので、今のご提言いただいてそのあたり研究したいと思います。以上です。

【男性】 息子と娘が6年生と3年生で番町に、あまり勉強はしてないみたいなんですけど、一応元気に通っております。私何年か前からですけれども、保護者の皆さんと結構親睦で食事したりするんですけど、何年か前からですけれども、「番町小学校の運動場が芝生やったらええよな」という話が出だしたんですね。番町グリーンフィールドプロジェクトです。私思うんですけど、やっぱり番町小学校っていうのは本当文字通り愛媛の中心、四国の中心。その一番町なかの学校のグラウンドが緑の天然芝だったら、どんなにすばらしいかと思います。番町小学校というのは運動会にしてもサマーカーニバルにしても学校だけじゃないんですよね、その地域の方、公民館含めて、地域の方、お年寄り、それからもちろん学校の先生方、PTA、子どもたち、それから幼児、みんなが集まる。そして番町小学校というのは避難場所になります。災害はいつ起こるかわかりません。避難所生活が長くなったときに番町のグラウンドが芝生やったら、避難した人のストレス、これはもう5分の1に10分の1になるんじゃないだろうか。文字通り地域のコミュニティとしての番町小学校と考えたときに、芝生やったらええなっていうのは前々から言よって、昨日、校長先生と教頭先生にお時間割いていただいてこの話しました。校長先生も視察でニュージーランド行ったときに、本当ニュージーランドの小学校、緑に囲まれた芝生のグラウンドっていうのは感動して、すばらしかったっていう話をさせていただきました。同時に、一概にすばらしいだけじゃないっていうこと、問題点も多々ある。私も毎週のようにゴルフ行きます

ので、芝生はどんなにすばらしいかもわかりますけども、どんなに大変かもわかっておるんです。やっぱり管理、水、メンテナンス、それから四季を通じて枯れたりどしたり。そういうことも含めて、ぜひ提案として行政のほうに、今堀之内の中もきれいに芝生公園になっております。そういうノウハウも参考に教えていただきながら、知恵も出していただきながら、番町グリーンフィールドプロジェクトは進めていただけないもんかなという感じがあるんですけれどもどうですかね。

【市長】 これは私が就任当初から保育園、幼稚園、小学校の校庭の芝生化を進めてまいりましたので、説明をさせていただきます。私が進めてきた芝生化というのは今8カ所まで広がったんですけども、ゴルフ場のようなきれいな芝生ではございませんで、鳥取方式というティフトンという非常に繁殖力の高い芝を使います。これをやると子どもたちが遊ぶ場所なんで、ゴルフ場の芝ほどきれいじゃなくていい、少々雑草が生えててもいい、そういう鳥取方式の芝生化を進めてまいりました。代表的なのが京都大学のラグビー場がこのティフトンっていう方式でつくられています。なぜするかというと、5つの利点がございまして、今の子どもたちはコミュニケーション能力、自分の気持ちを表す能力が昔に比べて非常に落ちてます。それは子どもたちは遊びを通してコミュニケーション能力、気持ちを伝える能力を鍛えてきたんですけども、今子どもたちだけで遊ぶケースが、インターネットのほうが楽しいとか、ゲームのほうが楽しいとか、塾が忙しいとかいうことで、少なくなってきた。子どもたちがのびのびと育つ場所をつくるということで芝生化。コミュニケーション能力の向上、運動能力も向上します。砂ぼこり対策にもなる、熱中症対策にもなる、そして最後が一番大きいんですけど、鳥取方式は地域の方、保護者の方、また子どもたち、先生、一緒に芝を植えてもらいます。それをすると芝は生き物ですので、芝が生えてくる。その芝に対して愛着がわく。そうこうすると芝の生えている保育園、幼稚園、小学校に愛着がわいてくる、そうするとそこで育っていく子どもたちに愛着がわいていく。つまり、地域の方と一緒にすることによって地域で子育てをする環境ができていくんです。鳥取方式の芝生化8カ所まで広がりました。松山市の坂本幼稚園、芝生化とインターネットで引いていただければ、毎日の記録が出ておりますので、どういう利点があるかとか、子どもたちが喜んで遊んでいるとか、虫さんが来るよ

うになったとかそんなのも見ていただけます。ただ問題点は、地域で育てる環境ができなければ重荷になってしまうだけです。ゴルフ場の芝ほどは要らないっていわれていますけれども、やっぱり水のケアができなければいけませんので、雨の少ないところですから雨水タンクはできているかとか、水のケアができているところになります。地域の方に協力をしていただけるか、水のケアはできるか、何かスポーツで芝があると困るんだってところがないか、そういうのをクリアしたところからさせていただいている状況ですので、またちょっと皆さんと話をさせていただいたらと思います。よろしく願いいたします。

【女性】 先ほど市長さんから、よいことはわかっているんだけど、それをずっと子どもたちのために生かし、そして芝生を育てることが地域や学校や保護者の皆さんにとって負担にならないようにというお話をされましたけれども、実はもう1つだけ、私も潮見小学校とか坂本幼稚園の芝生を育てているメリットというのは直接聞きました。子どもたちが運動場で遊ぶときのけががずいぶん減ったと聞いております。そして運動量が増えますからご飯をよく食べるようになったと家族の方が言われるというのも聞いたんですが、番町小学校の場合にもう1つ考えなければならぬというのが、カラスのふんの害がひどいんです。夜番町小学校のグラウンドに真っ黒のカラスが帯になって並んでいます。そして、近辺のN T Tのビル、番町小学校の校舎、市役所のビル、夕方になりますと真っ黒になるような状態です。本校の職員も校務員さんが中心に、朝、ひどいときには校舎の外の歩道の部分に落ちているふんをよく掃除してくれます。N T Tの周りには、電線にとんがったものがくるくると巻きつけて、そこの部分は見事にふんがないんですけれども、それが途切れたところは通れないくらいなふんがあります。番町小学校の大きなクスノキもねぐらになっておりまして、ふんだらけというのが正直なところなんです。子どもにとって快適な環境そしてけがが減る、運動量が増える、もちろん、水でありますとか管理でありますとか、市長さんが地域がともに関わってくれないと難しいとおっしゃってくれましたが、本当にその通りで毎日世話をしないといけない、教職員の力では難しいと思うんですけど、もう1つ、上に住んでいる生き物の生態云々というのは難しいと思うんですけども、最近気になっているところです。

【環境政策課長】 環境政策課です。確かに夕方ごろにカラスが真っ黒になって

飛んでいる姿不気味なところですが、カラスの実態2種類ありまして、中国のほうから冬の間越冬という形で飛んでくるミヤマカラスというのがまずおります。それから春から夏にかけては山間部で巣をつくって子どもをつくって、子どもが大きくなると巣立ちをして、冬場になると子たちと一緒に安心なねぐらを探して、城山ですけど、そこにミヤマカラスとかハシブトカラスが来るといって、越冬してくるカラスと今言ったカラスが一緒になってこのあたりに来ているのが実情なんです。カラスに対しては有効な手段というのがなかなかなくて、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の中で、カラスの駆除というのはむやみにできないことになってまして、私たちも苦慮しているところですけども、そういった中で、例えばごみの集積場所にネットをかけたり、ボックスをつくってカラスが来ない方策をとっているところもあります。それから、今おっしゃられたように電線の上にとまらないように、NTTとか四国電力が、電線の上に釣り糸みたいなのを張っていただいてカラスが来ないようにしているところもあるんですけども、ただ、張ってないところにはカラスが来るといって、面的にやらないとたちごっこになってしまってできないというのが実情です。四国電力とかNTTについては、お願いすれば釣り糸を張ってくれたりしてはしてくれるそうです。それからもう1つ、道路が汚れた場合には市の道路管理課が、本当に汚れのひどいところは掃除をしてくれます。聞きますと、晴れた日に水をまいてやると飛び散って汚くなるので、雨の日に限って掃除をするということになっておりますので、ご理解願いたいと思います。以上です。

【市長】 四国電力やNTTさんは言ったら大体対応してくれる。

【環境政策課長】 はい、対応してくれます。今日も確認いたしました。

【市長】 こうやって質問してくれたらわかることもあります。遠慮なく質問してください。今日、我々8時半ですぐに帰るわけではありませんので、例えばここカラスがすごく多いんよという場所があったら、我々地図も持ってきてますのでさっそくそれをNTTさんや四国電力さんに伝えることができ、対応は少しずつになるかもしれませんがやっていけますので、教えていただいたらと思います。

【男性】 今の校庭を芝生にしようということ、今カラスの問題なんかおっしゃってましたけど、私はカラスが来ようと、タヌキが住もうと何しようとなんか

とは構わないと思うんですよ、何かやれば問題が起こるといのは何やってもそうなんですから、だから何かを恐れてやらんということよりも、いいことはとにかくやればいいと、問題が起こればそれをどう解決していくかということも大事な勉強で、大人も勉強しなければならない、子どももそういうこと知って考えてそれも勉強になるんだということで、まず何をおいてもよきようなことはやってみるということが大事だと思うんですよ。だから少々の問題を、あれやると大変だ、管理が大変だ言うて消極的になるのではなくて、そういうところは後の問題だと、起こったら起こったときに考えればいいんだというくらいのつもりでやらなかったら、いいことは絶対できないと思うんです、だからどんどん進めていただきたいと希望します。

【市長】 例えば潮見小学校、園によっては使用頻度が、子どもたちがよく使うところは芝が薄くなっていくんですね、坂本幼稚園は比較的十分なスペースがあるので、ものすごく芝がよく育っているところです。潮見小学校はグラウンドの一部をされてます。ですので、まず、やるのかやらないのか、やるとしたらどれくらいのスペースでやれるのか、どれくらいの人協力してくれるのか、いろいろ決めるポイントがありますので、また皆さんと一緒に決めていただけたらと思います。

【男性】 前にも市長さんにはお願いしたことがあるんですけども、松山の象徴のお城山があります、その下に堀がある、何年も前から夏になると汚れるし赤潮みたいなことになってにおいもしだしたということで早く、歴代の市長さんもいろんな手を打っておるんですけど、効果が全然現れない。人智を持ってあれを制することができないのか、松山の中心にあるお堀がああ汚くては、どうもならんな、花園町がきれいになってもお堀が汚い、私たちが城東中学校に通いよるときは藻がゆらゆらと揺らいでいるのが見えて、透き通ったお堀だった。魚釣りをしていた時代がありましたけれど、それからみるとどこでどう変わったのかものすごく汚れてしまって、あれ見る限り松山の国際観光都市の名前を返上せんといかんと思ったりもするんで、ぜひ野志市長の力でやっていただきたいんですが。

【市長】 堀のことについては、味酒のタウンミーティングでも出ましたので、そのときの知識で。実は透明度としては上がっているんです。愛媛大学と研究をさせていただきまして、御存じのように県庁の西側から水が入ってきて、ぐるっ

と回ってきて本町二丁目くらいのところから流れていく、下流の農業用水になっているわけですが、汚れてる原因が、以前は土があって土に浸透してたんですけど、時代の流れで、コンクリート、アスファルトになって、雨が降るとぎっと流れて堀に流入するので、土だったらろ過することもできたんですけど、それができなくなってきたので、どんどん堀は汚れていった。でも今堀之内が見事に芝になりましたので、雨水はいっぺんろ過されてから堀のほうへという形になりましたので、以前よりかだいぶきれいになってきています。そして、以前市営プールがあったところの井戸の水を入れることにしておりますので、だいぶきれいな水が入るようになったので、汚い水が一気に入ることは少なくなった、そして農協会館のところ、NHKに行くところの道がありますけれど、あそこは全く水が行き来ができない形になってたんですけど、くりぬきまして水が行き来する形になりましたので、以前に比べたら水はきれいになっています。夏が汚いか、冬が汚いかというと夏のほうが汚いです。冬のほうがまだ水がきれいな状態、確かにきれいになってますが、まだまだ、どこの堀も苦労しているようなんですけど、私もできればこれから都市のありようから考えると、花園町、大手町、JR松山駅、そして環状線まで電車が延びる計画。将来的には空港まで電車が延びるともっと便利になりますから、そういう面的な整備をしていく中でお堀をきれいにできればと思っておりますので、これは引き続きやっていこうと思います。

【女性】 去年の夏とかにゲリラ豪雨、かなりぎっと降った雨で四丁目の商店街のところはすごく水があふれてかなり困ってらっしゃったんですけど、ああいうのは、排水設備とか緊急にさせていただいたほうがいいんじゃないかと思いました。

【下水道政策課長】 ゲリラ豪雨、最近全国各地でニュースなんかで見ると、松山市は今1時間で40.5ミリで対応できるような雨水の施設をつくっております。ご指摘のあったようにゲリラ豪雨とか、都市化の進展、特に番町地区は市長からもありましたようにほとんどがアスファルトになってしまって、道路の水はけが悪くなったり、浸水被害が発生していると思います。この番町地区、千舟町とか三番町の下には直径3メートルの雨水管をいち早く整備しまして、なんとか大きな被害にならないように対策をしております。そして場合によったら道路の排水の飲み口となります路面ですが30メートルに1カ所くらいついとるんですが、そういうところの排水が悪くて浸水することもありますので、具体的

な場所をお聞きして、また調査もしたいと思いますので言っていただいたらと思います。

【男性】 せっかくマスコミの市長なんで、お願いですけど、松山市を舞台にした映画かテレビドラマに参加してもらって、観光地誘致みたいな形で来客を増やしてもらいたいと、松山には天童荒太さんとか有名な脚本家も何人かおるんで、可能ならテレビドラマか映画をやって盛り上げてもらいたいと思ってます。

【市長】 これについては、私就任させていただいて最初の機構改革のときに都市ブランド戦略課をつくらせていただきました。前市長のときも「株式会社松山市役所」で、観光のことについても一生懸命やる、企業誘致のことについても一生懸命やる、農林水産物ブランドのことも一生懸命やるということでやってきたんですけど、統括がいなかった。それぞれ頑張ってるんだけど統括が要ということで、都市ブランド戦略課をつくらせていただきました。何をするかというと、アンケート調査すると、松山って我々はいいいまちだなんて思ってるんですけど、全国だと100番くらいなんです、人気順位というか知名度というか。これおかしいなと思って、テレビ、ラジオ、新聞、映画、インターネット、雑誌、こういうので松山取り上げられる機会が比較的少なかった。一応メディア出身ですから、どうやったら取り上げられるかというコツ知ってますんで、そういうの作りまして、東京のテレビ、ラジオ、雑誌、新聞、インターネットそういうところにやってまして、今増えてきました。松山のことが全国のテレビ、雑誌などで取り上げてもらえるのが。これはよそにまねされたくないのでも詳しくは言いませんけれど、今、事業費の118倍、16億円の効果が出ております。取り上げられるということはすごい大きい。松山に行きたいな、愛媛に行きたいなと思ってもらえますので、成功している例でございます。当然テレビ局とか映画会社にも松山の情報は行っております。あとは選んでくださいといったところです。そして観光で元気にするためにはコツがありまして、大手の旅行会社とちゃんとタッグが組めるかどうかなんです。普通の行政だったら、「うちのまちに来てください、お願いします、こんなものがあります、松山城があります、道後温泉があります」で大体終わってしまうんですけど、うちは、株式会社松山市役所ですから、例えば船舶会社をお願いして、広島から松山に来るスーパージェット、呉で降りちゃうとその後無効だったんですけど、途中下船できるようにするとか、料金をぐっ

と安くしていただくとか、そういう旅行メニューつくってもらおうとか、そういうことをして、旅行会社さんから「松山なかなかやるな」、自分らで旅行商品を松山市役所がつくって、そして業者さんへ持って行ってというのをやってきました。これ、皆さんに喜んでいただきたいんですけど、今年の4月、5月、6月、7月、8月、9月の半年間は業界第2位、第3位といわれております近畿日本ツーリストさんと日本旅行さんが、四国松山を重点共同集客キャンペーンの地として選んでくださいました。これは、近畿日本ツーリストさんと日本旅行さんが全国の販売網を使って、目標を設定して四国、そして松山へお客さんを送り込んでくれるというのを意味します。ちなみに去年はJR西日本さんとJR四国さんの2社が3カ月間重点送客キャンペーンしてくださって、お客さんの増えた数が2万6千人、4億5,500万円の経済効果がありました。それが今年は倍になります、しかも全国になります。4億5,500万円よりも大きい経済効果あるでしょう。これは昨日決まったんですけど、トップツアーさん、旧の東急観光さんが今年の10月、11月、12月、1月、2月、3月の6カ月間重点送客キャンペーンの地として四国松山を選んでくださいました。これも同じ、全国の販売網使って目標設定して松山へお客さんを送り込んでくれる。そして来年が一番大事な年、瀬戸内海国立公園は皆さんに胸を張っていただきたい、日本で初めての国立公園なんです。瀬戸内海国立公園は来年80周年迎える、我々の道後温泉本館は来年120周年を迎える、四国八十八箇所が開かれて来年1,200年を迎える、来年3つが重なる年です。ここで観光頑張らんでどうするんやという年ですけど、業界最大手のJTBさんが来年の4月、5月、6月、7月、8月、9月の6カ月間、全国の販売網使って目標を設定して四国松山にお客さんを送り込んでくれることが決まりました。これは全国との競い合いですから、それを獲得できたのは大きかったと思っています。これは20年間あの仕事で鍛えていただいた話術も駆使しておりますし、私の持ち味なんで発揮していかないといけないと思っています。このようにとにかく松山を元気にしたいという思いでやっておりますので、テレビもいいと思います、映画もいいと思います、いろいろな方法で松山を元気にしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【男性】 1つ提案ですが、いろいろ観光の努力もされとると思うんですが、私は松山は全国でトイレ一番のまち、日本一トイレのきれいなまちという発想でき

んかなど。というのは、4、5年前にお城山に久しぶりに登ったんですよ、ロープウェイのビルの中はものすごくきれいです、トイレもきれいです。今、上のほうで直っとたらごめんなさい、そのとき山の上のほうへ上がったら、トイレの下のほうがしゃがんでする便所なんですよ、昔の。今ごろしゃがんでトイレせいというのは非常に酷な問題です。観光一番のお城山でもそうだったんですが、松山市のいろんなところにトイレをつくっておられると思うんですが、これを5億か10億いっぺんかけたら、それこそピカピカになって全国的にもトイレ一番松山、こうなったら観光にも結びつくと、意外とそういうトイレ文化というのはお金かけても損はしない、変な提案ですけど。

【市民部長】 分野が広いもんですからさっそく今のご提案を庁内で共有してどういうふうになっているかも含めまして検討させていただきます。

【市長】 今日は私のまちに対する思いなども述べさせていただいたので、皆さんびっくりされて、パワーに押されたところあったかもしれませんが、このタウンミーティングというのは、41地区中の今日が40地区です。番町の皆さんお待たせしましたというところなんですけれど、1巡目だと思っております、2巡目ももちろんするつもりであります。私は現場現地を大事にしたい、皆さんのところに出かけて行って、そして皆さんの声を聞かせていただいて、すぐさま反映できるものはすぐさま市政に反映したいということでさせていただいております。本当は48カ月、4年で回るつもりだったんですけど、おかげさまですぐに反映できることはすぐにしていますので、好評をいただいておりますので2年2カ月に41地区を回りきる形になります。また、2巡目したいと思いますし、今日、どうも自転車対策は皆さんとじっくり話をする時期が来ているんじゃないかと思いましたが、帰りましてまた皆さんと話す機会ができればよいのではないかと思っております。真摯な議論ができたのではないかと思っております。中央商店街というのはこれからの松山のまちづくり考えると非常に大事なところですよ。活気のある状態のままでキープをしていきたい、継続をしていきたいと思っております。そのためには自転車はどうあるべきなのか、そして歩行者の方、自転車の方、車との共存どうしていくべきなのか、押しつけることはしたくないので、皆さんとご意見交わしながらやっていきたいと思っております。

最後に私、前の仕事、皆さん御存じのように20年、愛媛県内だけでなく中四

国、九州各地を回らせていただきました。今治の商店街が本当に大変な状況だというのは、もう10年も15年も前からでしょうか見ておりました。でも今今治はバリィさんであったり、焼豚玉子飯であったり、タオルも本当につらい時期が続きましたが、タオルも復活してきています。それは皆さんが一生懸命な思いをぶつけて動いたからだと思うんです。行政も必死になって考える、そして動く、そして民間の方と一緒に、皆さんと一緒に、皆さんにも考えていただいてそして動いていただく、その両方が合わさらないと前向いて進まないだろうと思っています。これから国自体の財政厳しいですから地方の激しい競争が始まると思います、実際。四国の中でも地方都市の競争が始まると思います。これは行政だけではできません。行政と民間が一緒になって進んでいかなければ、お互い文句を言ってるだけでは進んでいけないと思います。行政が悪い、民間が悪いじゃなくて、お互い松山市をよくするという思いは共通だと思います。本当に真摯な議論をこれからも重ねて、松山をどういうまちにしていくのか、議論をしっかりと重ねていきたいと思いますので、これからいろんなことがあると思いますが、行政なかなか動かんとか、はがゆいなとか、顔が見えんなどということがあるかもしれませんが、とにかく松山をいいまちにして、将来の子どもたち孫たちに残していかないとはいけません。真摯な議論を重ねていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

— 了 —